

SWCCグループ

2021年3月期  
スモールミーティング



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

June 2, 2021

<https://www.swcc.co.jp>



# 会社概要

商号	昭和電線ホールディングス株式会社 SWCC SHOWA HOLDINGS CO.,LTD.
設立	1936年5月26日
事業内容	電線等の製造販売を営む子会社の経営管理
本社所在地	神奈川県川崎市川崎区日進町1-14 キューブ川崎
資本金	24,221百万円 2021/3末
決算期	3月31日
従業員数	45名(連結:4,319名) 2021/3末
役員	代表取締役社長 長谷川 隆代 他取締役 3名、独立社外取締役 3名 執行役員 12名
子会社	国内外 19社、持分法適用関連会社 4社、その他 1社



1984年4月 当社入社  
2005年6月 当社技術開発センター次長  
兼超電導プロジェクト長  
2010年4月 昭和電線ケーブルシステム(株)常務取締役、  
当社執行役員、技術企画室長  
2013年6月 当社取締役  
2018年6月 当社代表取締役・取締役社長（現任）

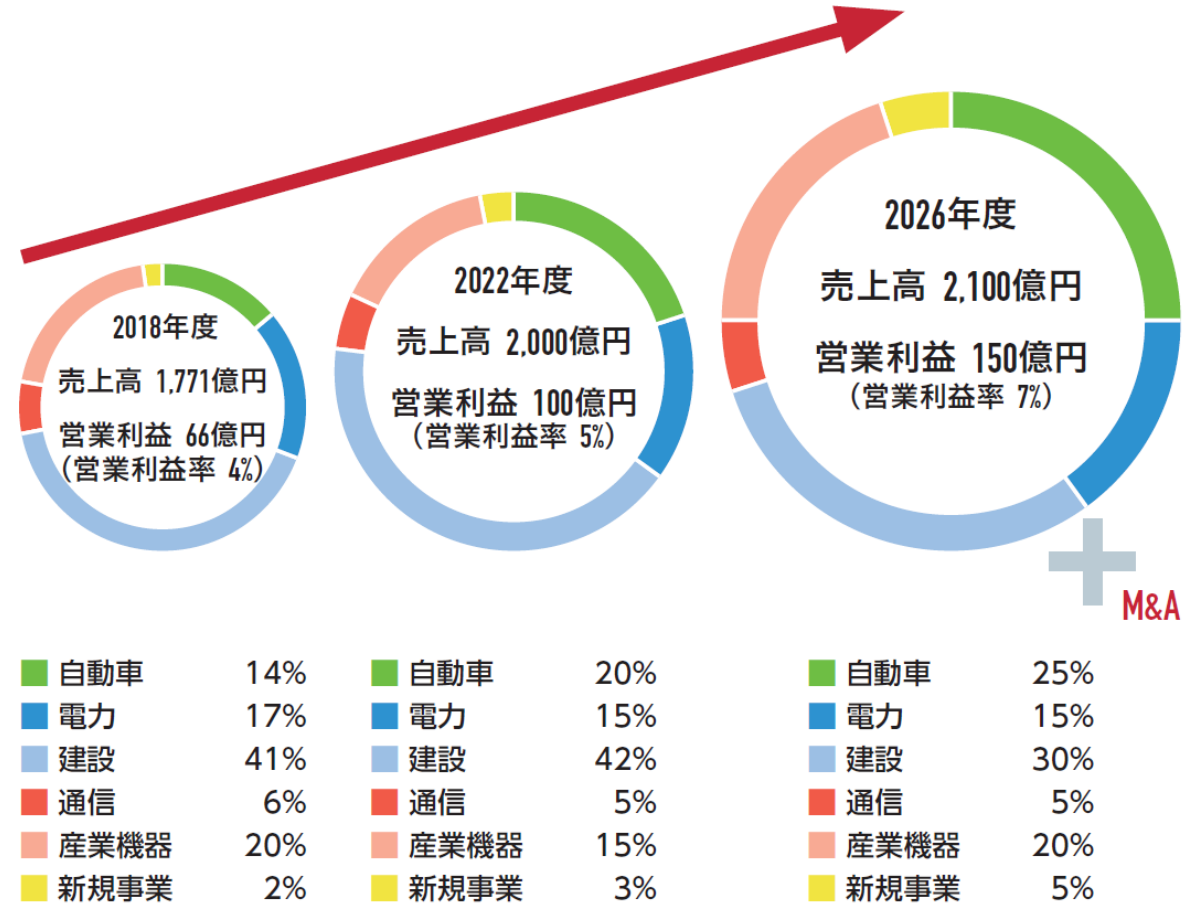
# 昭和電線VISION2026 & 目指す市場別売上構成



## Change SWCC2022



## ■ 目指す市場別売上構成



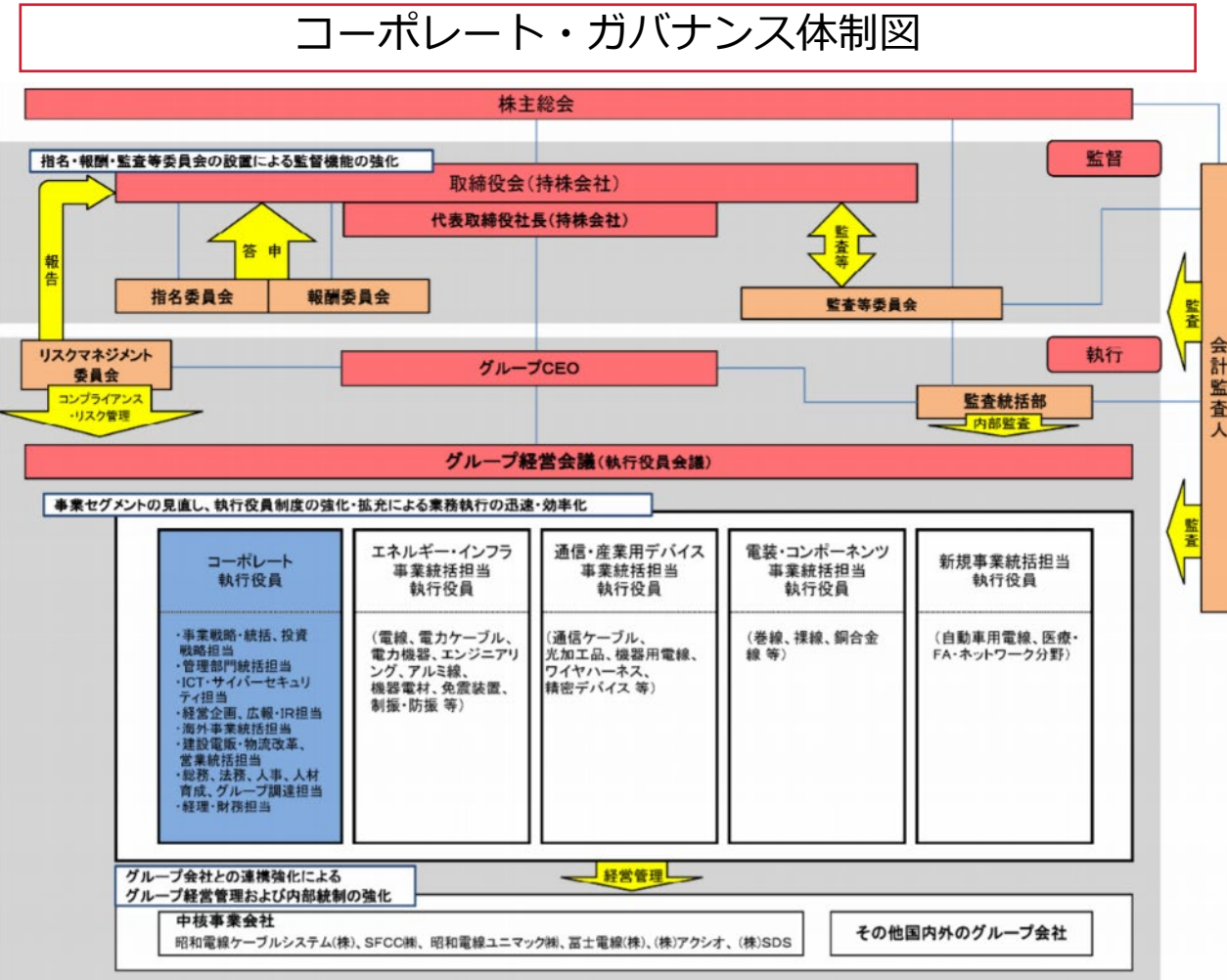
# 昭和電線グループのコーポレートガバナンス

当社グループは、以下の3点が充足されるガバナンス体制を目指しております。

- ① 経営の効率化と意思決定の迅速化
- ② 業務執行に対する権限と責任の明確化
- ③ 経営・業務執行に対する監査、監督の強化

中計期間におけるガバナンス体制の変更

- 2018年12月: 指名委員会・報酬委員会設置
- 2019年 4月: 事業セグメントの変更  
執行役員制度の見直し
- 2019年 6月: 監査等委員会設置会社への移行  
独立社外取締役中心の監査等委員会
- 2020年 4月: 譲渡制限付株式報酬制度導入
- 2020年 6月: 独立社外取締役増員 (2名⇒3名)



# 2021/3期：連結損益計算書

- 売上高は前年度比△5.5%、営業利益は△11.8%。  
1Qはコロナ禍の影響により落ち込んだものの、2Q以降回復に転じた。
- 構造改革の効果もあり、通期で2018年度を超える利益レベルを確保。

(単位：億円)

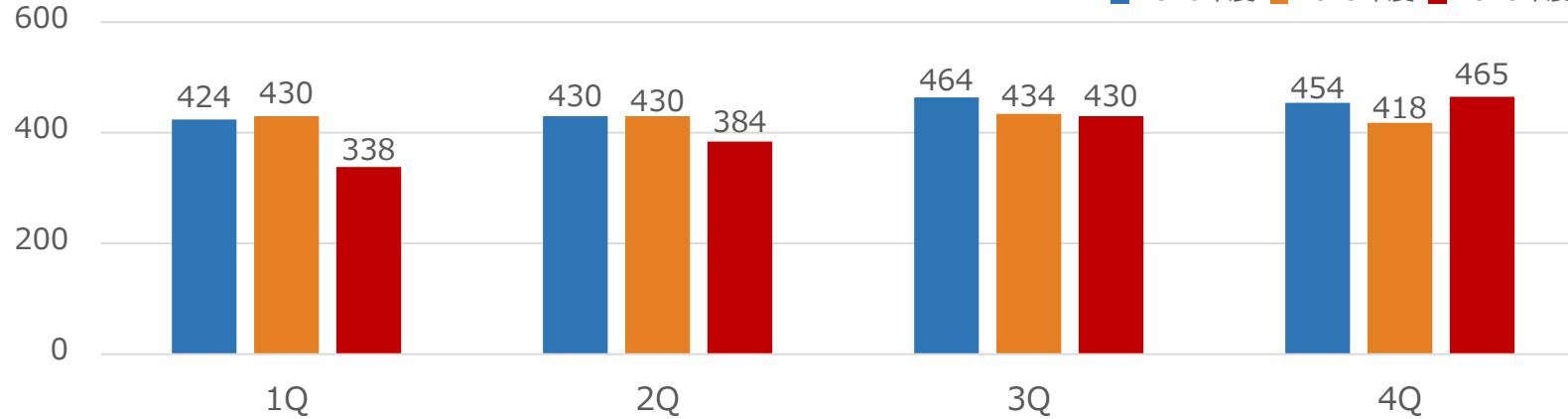
	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	構成 %	前年度比 %
売上高	1,772	1,711	1,617	-	△5.5%
売上総利益	217	237	218	13.5%	△8.3%
営業利益	66	86	76	4.7%	△11.8%
経常利益	56	79	78	4.8%	△1.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	46	55	50	3.1%	△9.1%
配当金/配当性向	7円 5%	15円 8%	20円 12%	+5円	-

# 四半期業績推移（過去3期比較）

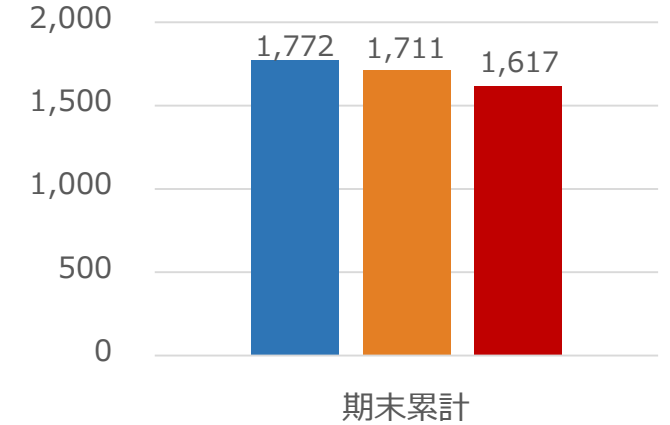
(単位：億円)

## 四半期毎の売上高推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



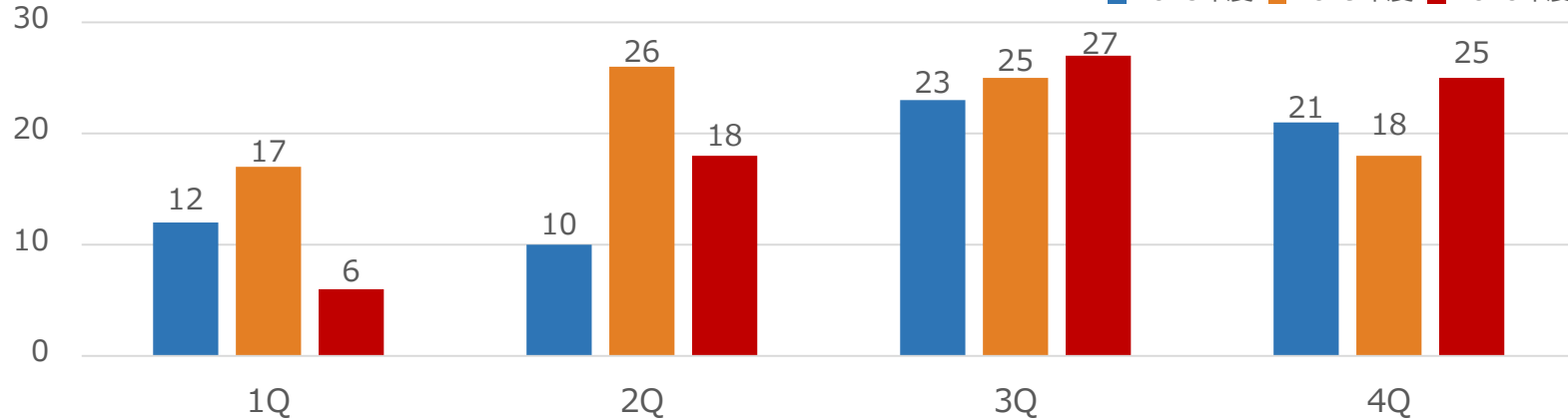
## 期末累計の売上高推移



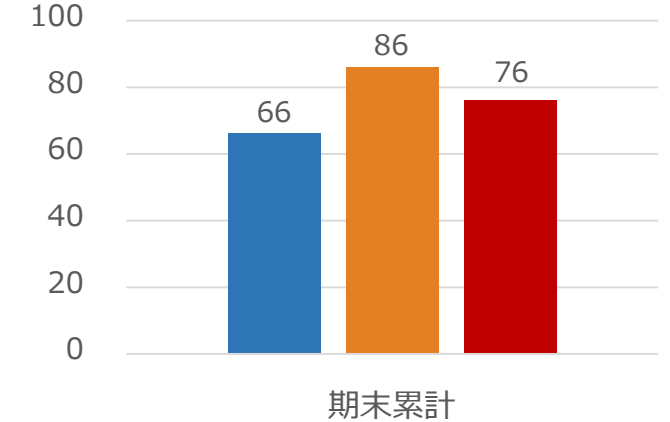
(単位：億円)

## 四半期毎の営業利益推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



## 期末累計の営業利益推移



# セグメント情報(3カ年推移)

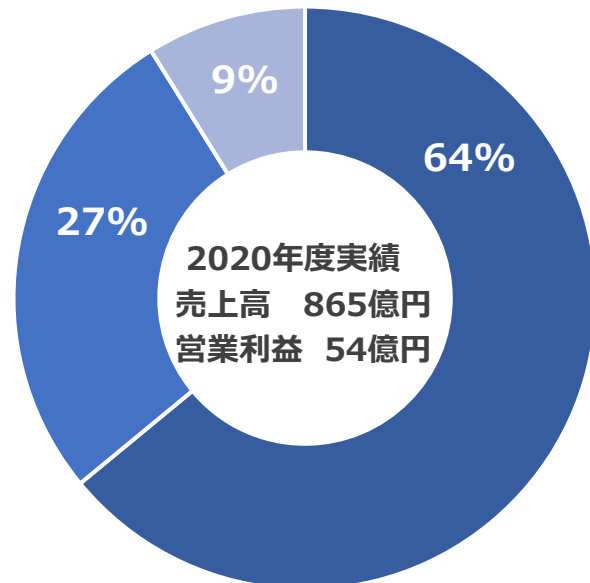
- 2Qから回復基調となり、2018年度を超える利益レベルを確保。

(単位：億円)

	2018年度 実績		2019年度 実績		2020年度 実績	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
エネルギー ・インフラ	867	43 (5.0%)	885	61 (6.9%)	865	54 (6.3%)
通信・産業用 デバイス	327	18 (5.5%)	305	25 (8.2%)	270	18 (6.9%)
電装・ コンポーネンツ	523	8 (1.6%)	471	6 (1.2%)	431	7 (1.7%)
その他 (内新規事業)	55 (36)	△3 (1)	50 (35)	△6 (0)	52 (38)	△4 (1)
合 計	1,772	66 (3.8%)	1,711	86 (5.0%)	1,617	76 (4.7%)

# セグメント情報(サブセグメント売上高構成比率)

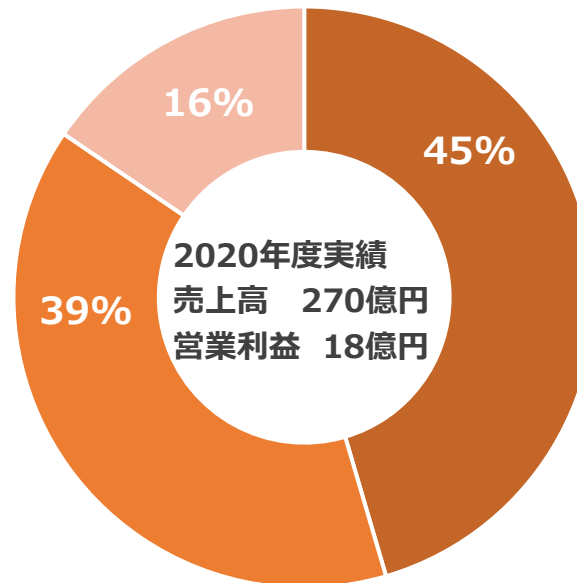
## エネルギー・インフラ事業



■ 建設関連 ■ 電力インフラ ■ 免震・その他

営業利益率：6.3%  
ROIC※：7.2%  
設備投資額：14億円

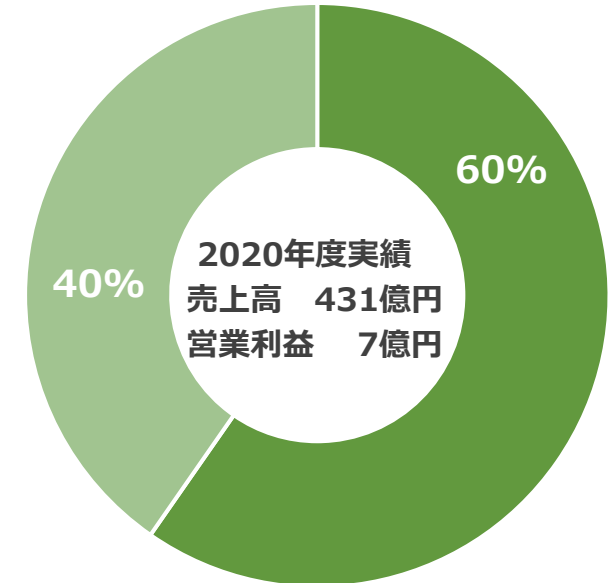
## 通信・産業用デバイス事業



■ 通信ケーブル ■ ワイヤハーネス

営業利益率：6.9%  
ROIC※：6.1%  
設備投資額：9億円

## 電装・コンポーネンツ事業



■ 高機能製品 ■ 一般汎用製品

営業利益率：1.7%  
ROIC※：4.9%  
設備投資額：10億円



# ESGの取り組み（統合報告書）

## Environment(環境)

- ・環境計画「Green Plan 2050」の策定
- ・日本政策投資銀行「DBJ環境格付」  
**2年連続**最高ランク取得



## Social(社会)

- ・子育てサポート企業「くるみん」の取得と「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」の認定
- ・従業員の選抜教育、リベラルアーツ教育の充実化
- ・新型コロナウイルス感染予防対策の徹底とWithコロナにおける「新しい業務習慣ガイドライン」の制定
- ・カワスイ川崎水族館オフィシャルサポーターに登録

## Governance(ガバナンス)

- ・独立社外取締役の増員(2名から3名)による監督機能の強化
- ・譲渡制限付株式報酬制度の導入
- ・リスクマネジメント室設置による体制強化

2020年9月30日

「昭和電線グループレポート 統合報告書2020」を発行いたしました。

<https://www.swcc.co.jp/environment/download/index.html>



昭和電線グループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援する活動に取り組んでいます。



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

2022/3期 通期業績計画

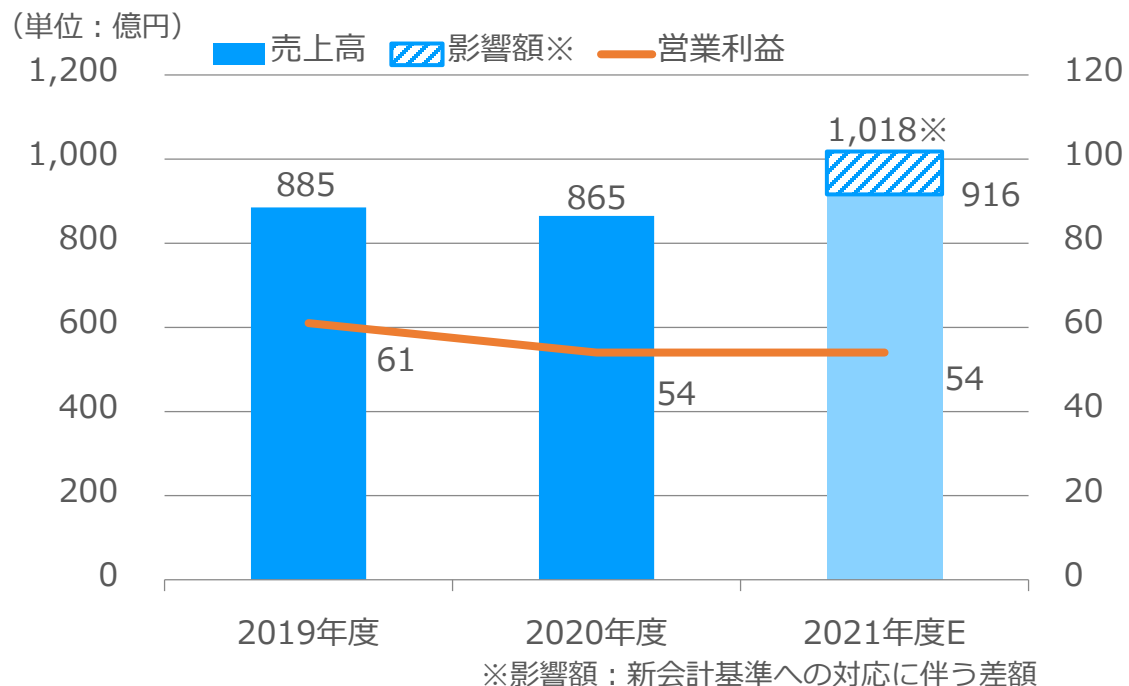
<https://www.swcc.co.jp>

# 2022/3期：通期業績計画

- 2021年度業績はコロナ禍の影響が継続する懸念がありつつも、環境配慮型製品に関する需要等を取り込み、増収増益の計画。

(単位：億円)	2020年度 実績	構成 %	2021年度 計画	構成 %	増減額	増減率
売上高	1,617	—	1,800 (2,000)	—	+183	+11.3%
売上総利益	218	13.5%	—	—	—	—
営業利益	76	4.7%	86	4.8% (4.3%)	+10	+13.3%
経常利益	78	4.8%	83	4.6%	+5	+6.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	50	3.1%	68	3.8%	+18	+36.9%
配当金/配当性向	20円	12%	40円	18%	+20円	—

# エネルギー・インフラ事業 業績計画



## ■ 市場見通しと施策：

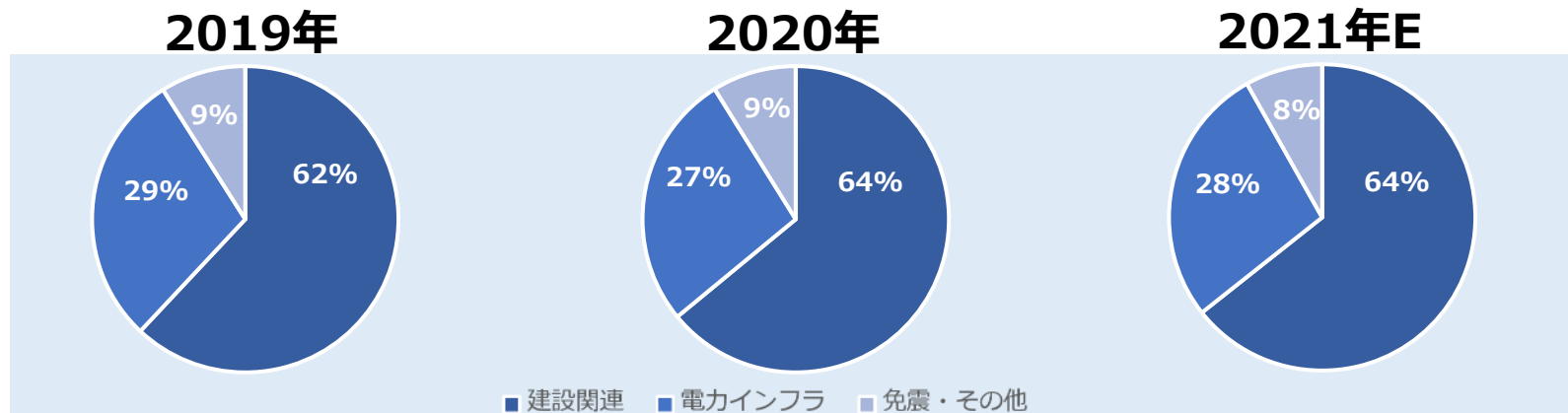
- ・ 需要変動への生産体制対応
- ・ 再生可能エネルギーの系統連系ビジネスモデルの強化
- ・ 制振制音事業の構造改革推進

## ■ 通期計画：

売上高 916億円 (前年度比+51億円)  
 営業利益 54億円 (前年度比 0億円)

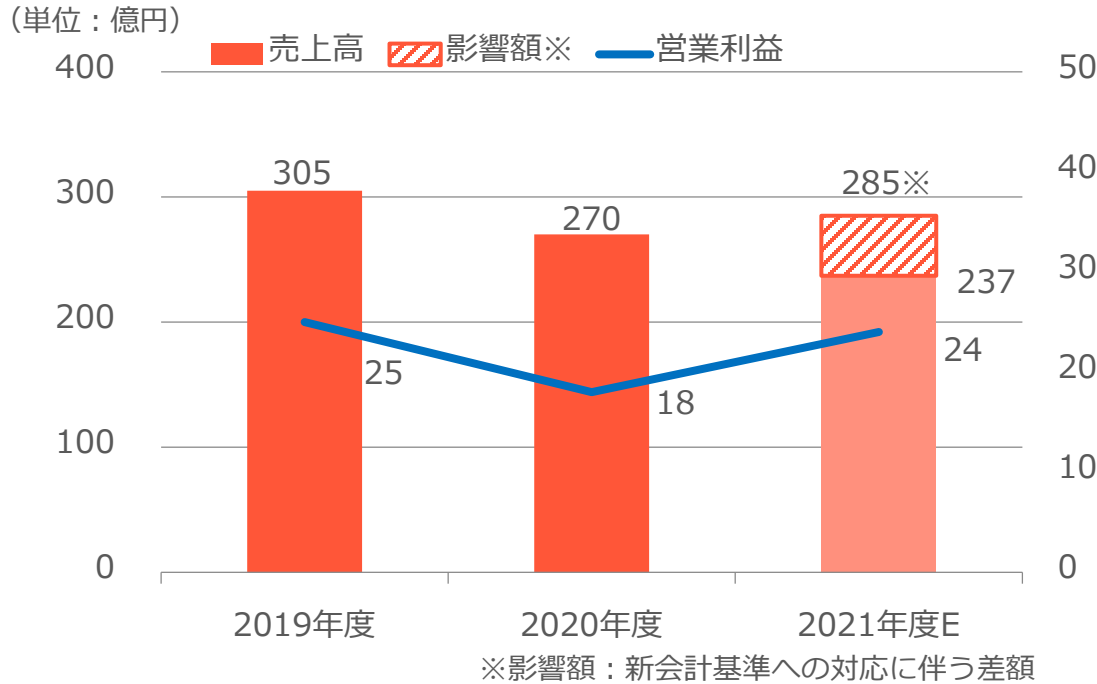
**営業利益率：5.9% (前年度6.3%)**

## サブセグメント 売上高比率推移



# 通信・産業用デバイス事業

# 業績計画



## ■ 市場見通しと施策：

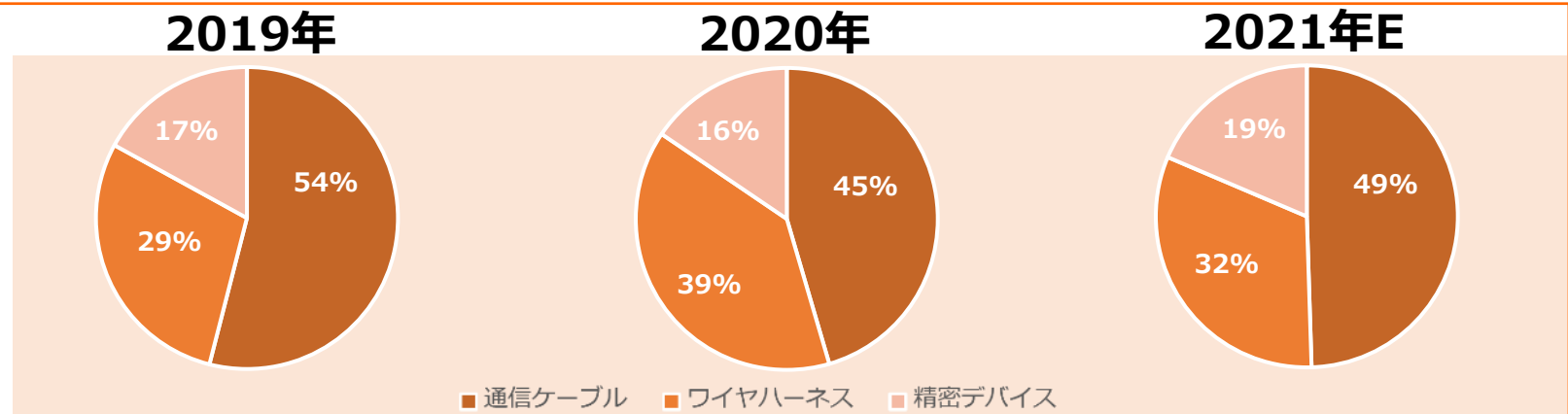
- ・ 5Gサービス関連需要の捕捉
- ・ ワイヤハーネスの新体制始動と海外事業の強化
- ・ 新たなサプライチェーンと地産地消 (中国、東南アジア)への構造改革

## ■ 通期計画：

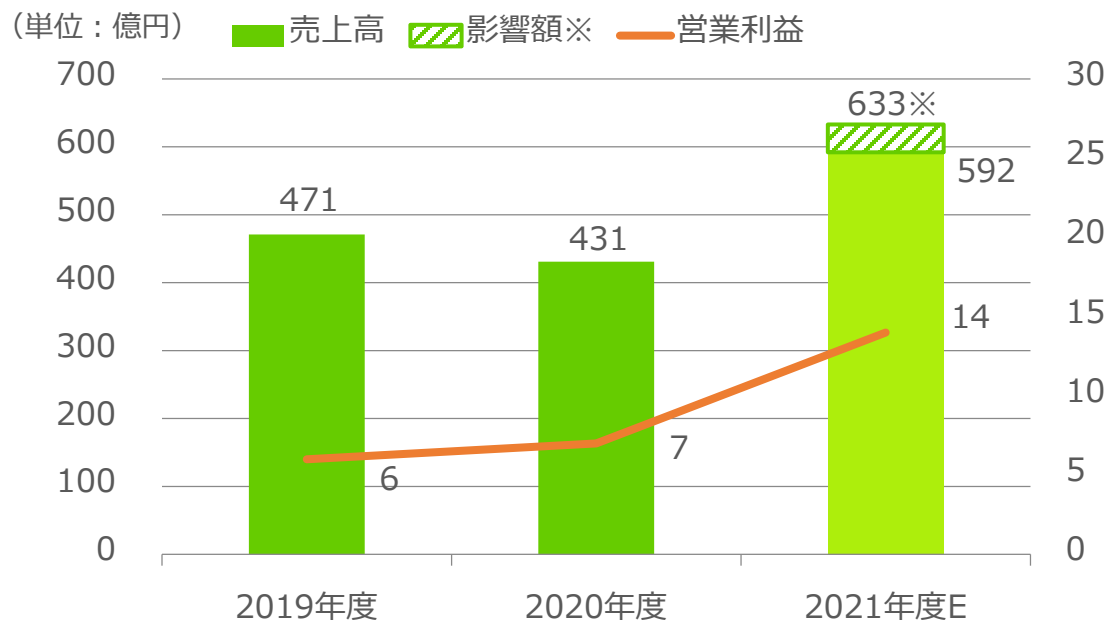
売上高 237億円 (前年度比△32億円)  
 営業利益 24億円 (前年度比 +5億円)

**営業利益率：9.9% (前年度6.9%)**

## サブセグメント 売上高比率推移



# 電装・コンポーネンツ事業 業績計画



※影響額：新会計基準への対応に伴う差額

## ■ 市場見通しと施策：

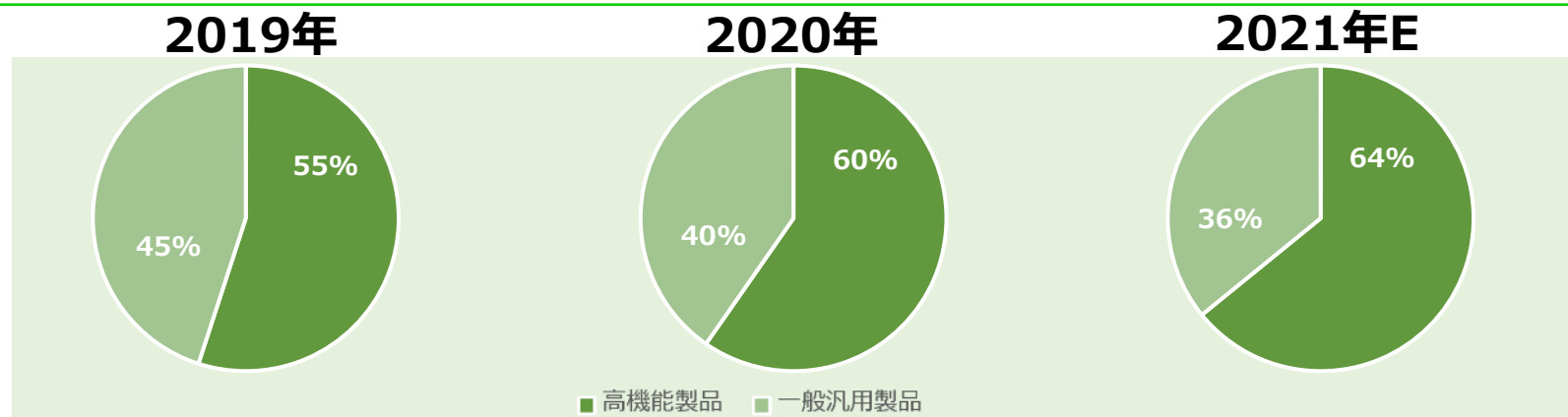
- ・自動車産業の構造変化、環境対応車割合増加に向けて生産体制を增強
- ・高収益製品へのリソースのシフト

## ■ 通期計画：

売上高 592億円 (前年度比+161億円)  
 営業利益 14億円 (前年度比 +6億円)

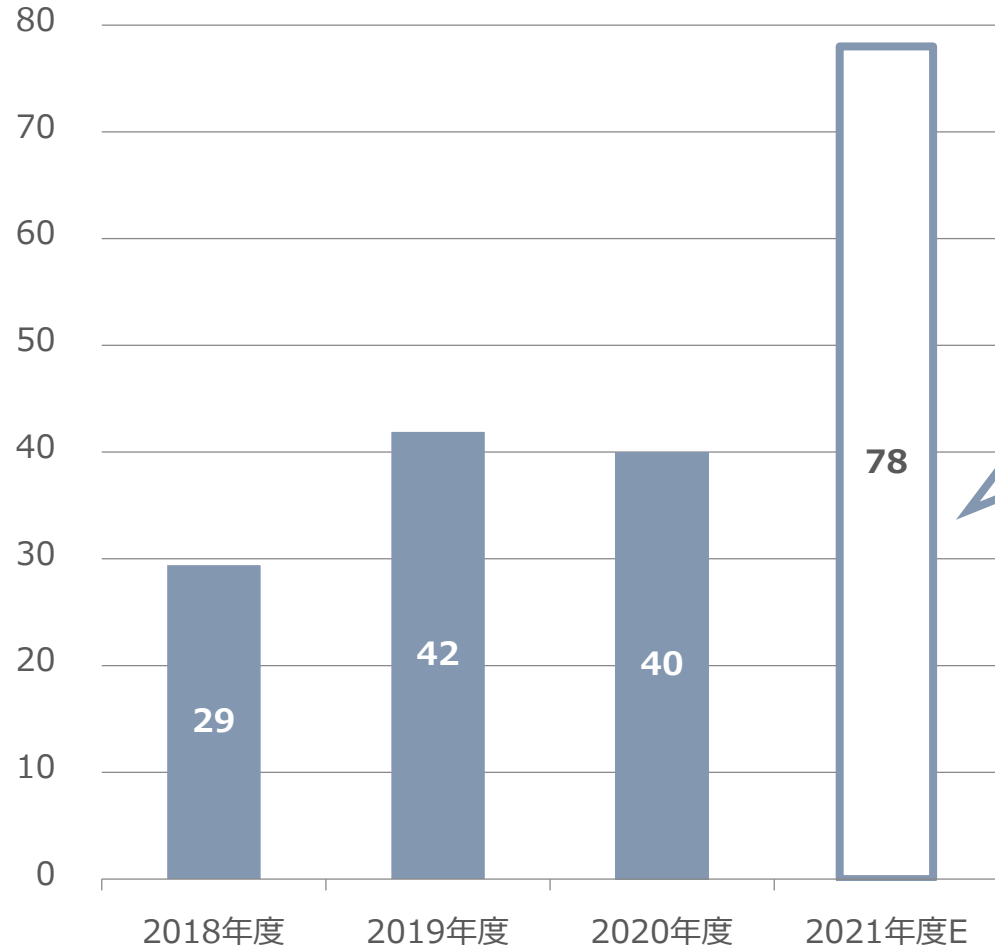
**営業利益率：2.3% (前年度1.7%)**

## サブセグメント 売上高比率推移

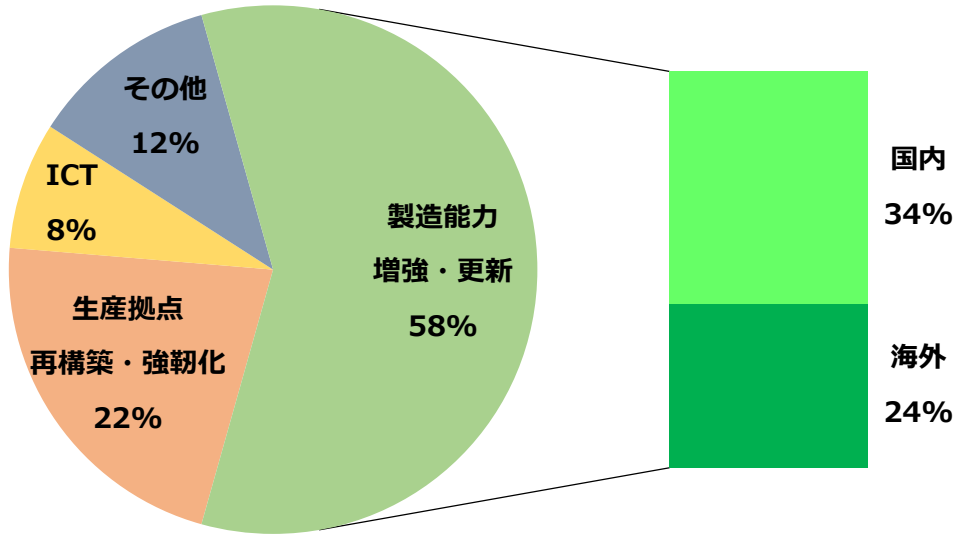


# 設備投資の実績と2021年度計画

(単位：億円)



## 2021年度 設備投資計画の内訳



### 製造能力増強・更新

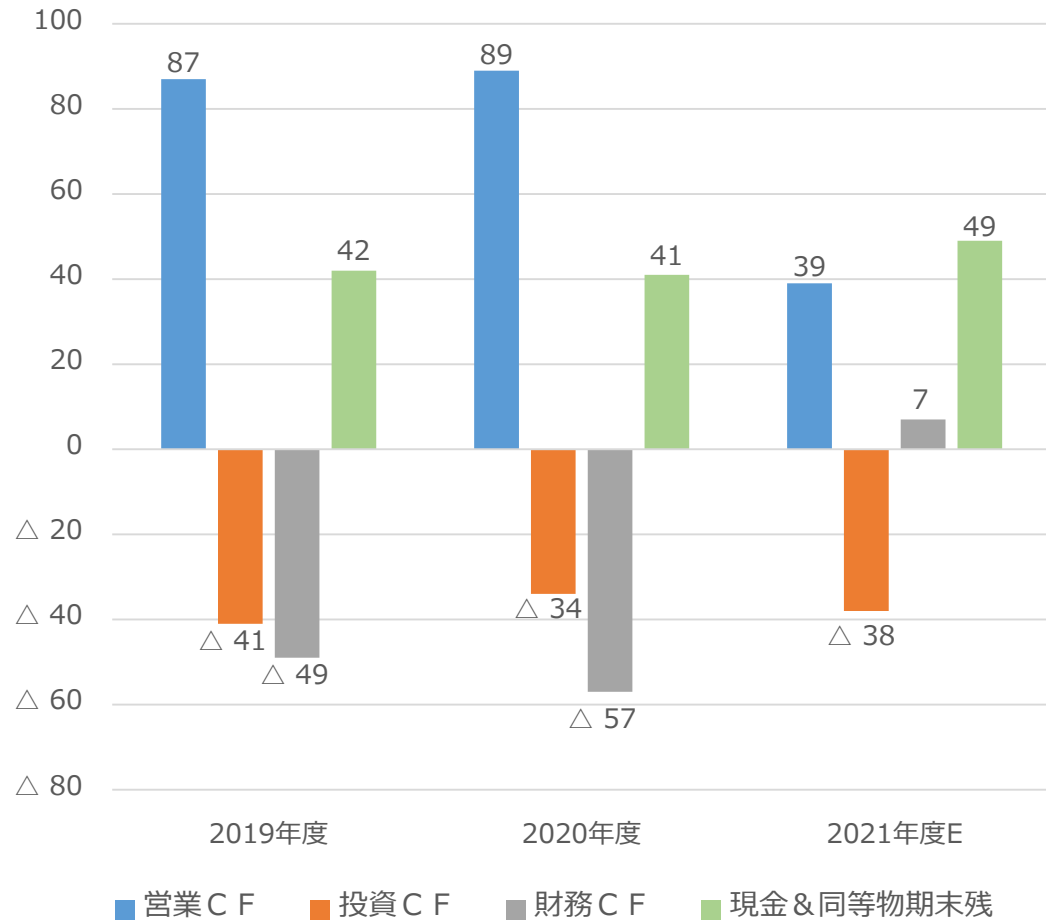
- ・新製品増強 8億円
- ・中国新工場(嘉興昭和機電)拡張移転 16億円

### 生産拠点 再構築・強靱化

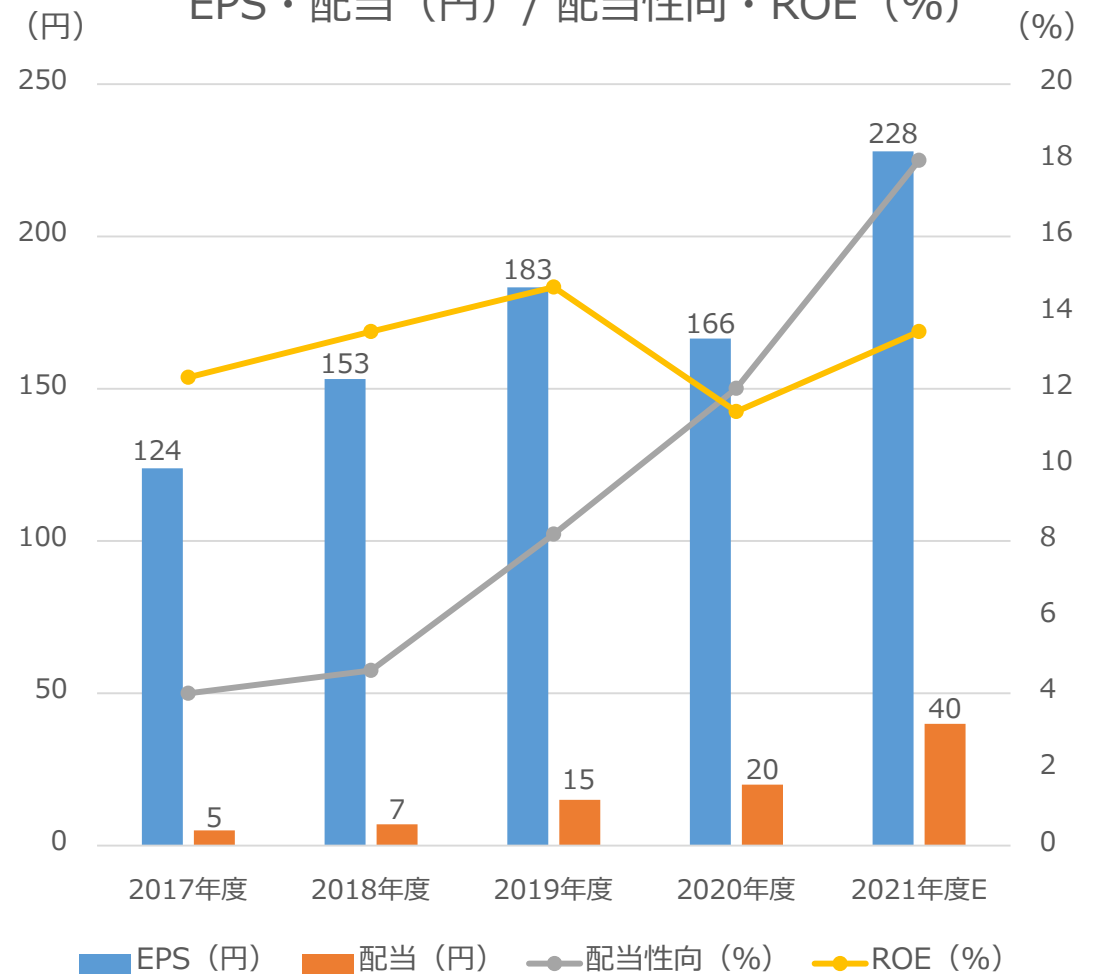
- ・通信ケーブル国内拠点再編 (一部 2022年度含む) 14億円
- ・強靱化 3億円

# CF計画と株主還元方針

連結キャッシュフロー (単位：億円)



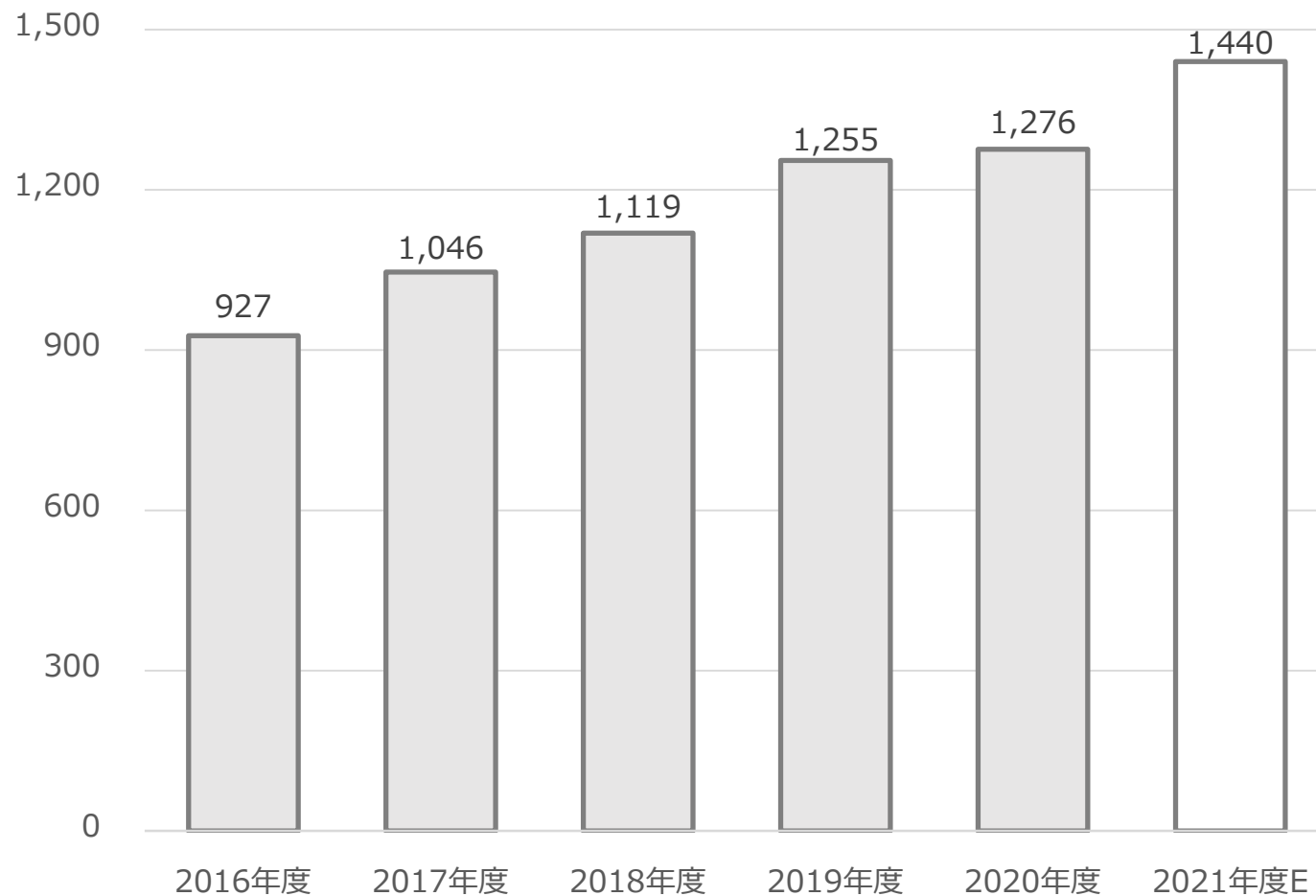
EPS・配当 (円) / 配当性向・ROE (%)





# 研究開発費の推移

(単位：百万円)



Webページは  
こちら



1年に1度、研究開発の成果をまとめ、『昭和電線レビュー』として公開しています



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

中期経営計画  
「Change SWCC2022」  
今後の展開について

<https://www.swcc.co.jp>

# 事業セグメントと新しい社会への貢献

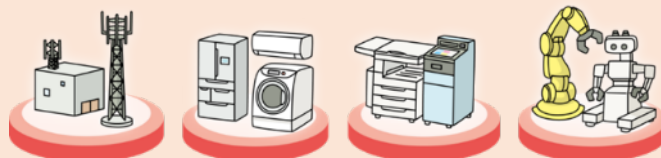
## エネルギー・インフラ

超高圧ケーブル、電力用機器部品(SICONEX®)、架空送電線、産業用電線・ケーブル、消防用ケーブル、電設資材、免震・制振・防振



## 通信・産業用デバイス

光ファイバケーブル、LANケーブル、e-Ribbon®、ワイヤハーネス、複写機用ヒートローラ



## 電装・コンポーネンツ

無酸素銅(MiDIP®)、銅合金、各種巻線、リッツ線



## 新規事業

ワイヤレス給電コイル、車載アルミケーブル、ロボット用ケーブル、超電導製品



## グリーン化社会

- ・再生可能エネルギー
- ・超電導ケーブルシステム
- ・送電網の複線化
- ・再エネに関連した系統整備
- ・環境対応車

## デジタル化社会

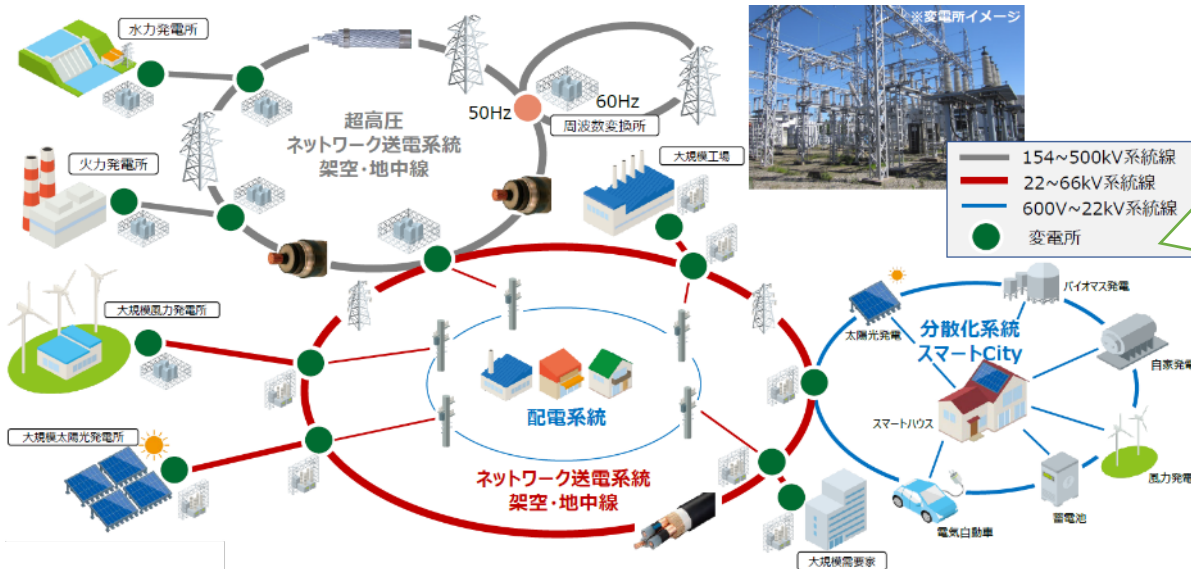
- ・データセンター、基地局
- ・環境対応車(CASE)
- ・デジタルヘルス
- ・GIGAスクール構想
- ・5G等によるICTインフラ整備

# SICONEX®増産投資を決定 (2021.2.25プレスリリース)

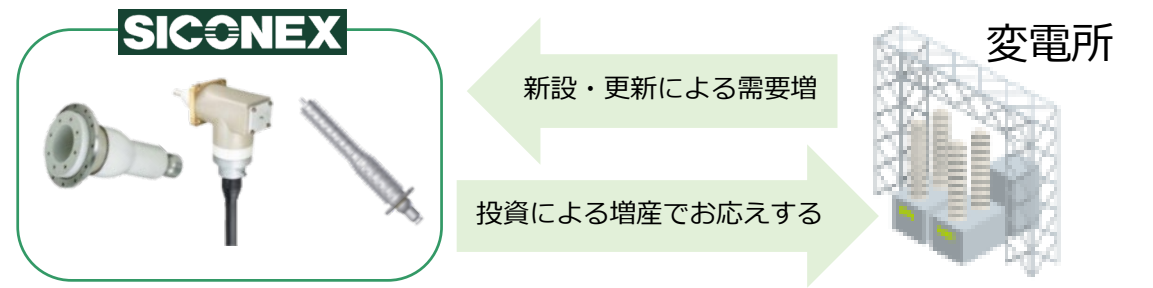
電力市場におけるSICONEX®需要拡大を捕捉のため増産(1.5倍)投資を決定。売上拡大と生産ラインの一新による収益改善策を実施。投資総額は20億円。

- ①製造レイアウトの効率化 ②材料の一括集中管理システムの導入
- ③製品・材料の工場内自動搬送 ④オートメーション化ならびにロボット導入による省人化

2023年4月の完工を予定。2026年度までの売上高目標300億円以上の達成をより確実に。



当社の電力事業は、主に**変電所**に向けたソリューション提供(ケーブル・**機器**・工事・保守)。**機器**の主力製品である**SICONEX®**を増産し電力事業全体の収益力強化を図る。



# 接続工事システム SICOPPLUS™ (サイコプラス) (2021.5.13プレスリリース)

SICONEX®を核とした、ケーブル・機器部品・工事・保守といった接続工事システムを新ブランド『SICOPPLUS™ (サイコプラス)』とすることを発表。

さらなる接続工事技術の効率化・省力化とサステナブルな人材育成プログラムを付加し、新たな接続工事システムとして進化させてまいります。



ブランドロゴ



# SICOPLUS™ 接続工事技能 教育プログラム

目的

特別高圧 CVケーブル SICOPLUS™ 接続工事技能の取得  
(ゼロからの教育開始 → 短期の現場戦力化を目指す)

教育カリキュラム

Step1  
DX教材の活用



Step2

技術者 必要知識の取得



Step3

総合訓練 実務取得

模擬洞道での実務



Step4

現場OJT

実工事現場による実務



スパイラルアップ(短期習熟)

ベース設計

ステージ1

サステナブル  
人材育成

Step1 習う準備(事前教育)

Step2 作業の説明を受ける

Step3 やってみる(演習)

Step4 習った事を振り返る

ステージ2

技能底上げ

275kV

154kV

66/77kV

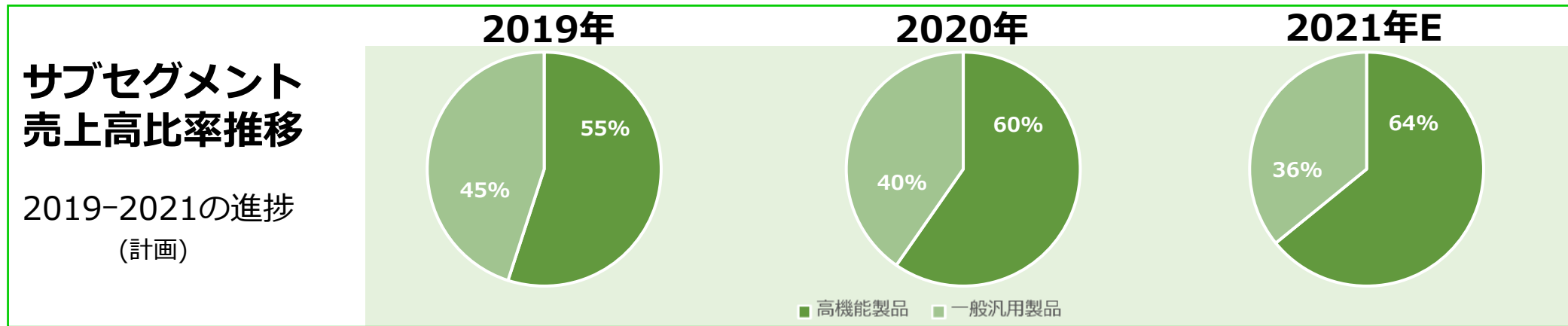
# 通信ケーブル事業の国内拠点再編 (2020.11.4プレスリリース)

総額14億円を投資し、通信ケーブルの国内拠点を4拠点から3拠点に集約・再編。  
これからのデジタル化社会に備え、開発・生産体制の効率化とサービス向上を図る。



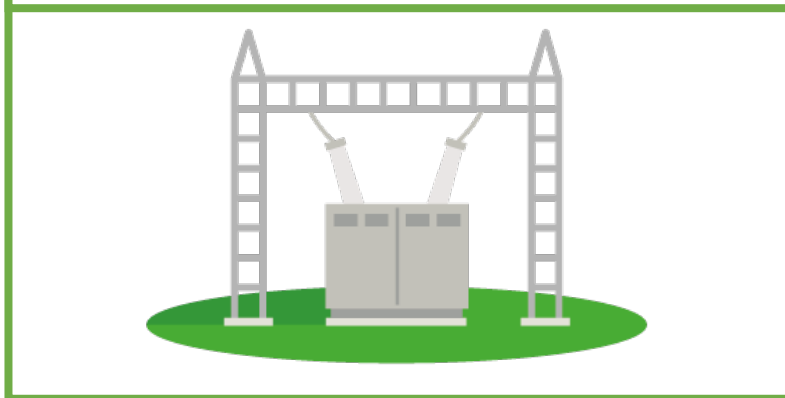
# 電装コンポーネンツ事業(重電から自動車へ)

電装・コンポーネンツ事業では2026年度に自動車向け(下図「高機能製品」)の売上高を2018年度実績対比約2倍に当たる525億円に引き上げ、収益率を向上させる計画。



これまで

一般汎用製品(主に重電向け)



から

高機能製品(主に自動車向け)



へのシフトを推進

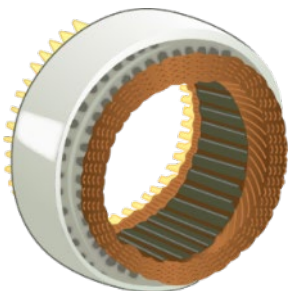


# 高機能製品の具体例

EVシフトの加速により当社グループの「高機能製品」の需要が急速に拡大。  
電装・コンポーネンツ事業は「高機能製品」へのシフトを継続していく。

## 無酸素銅(MiDIP®)

駆動モーター



車両の軽量化のため、細径で  
高効率な素材が求められる

## 銅合金(ヒータ線)



ハンドルヒータ



バッテリーヒータ



シートヒータ

エンジンでなく  
モーターで動くEV、PHVは  
熱源が無いいためヒータ線を多用する



+α

## 細平角

小型の電子機器には  
極小で高効率なモーターが求められる



## 巻線

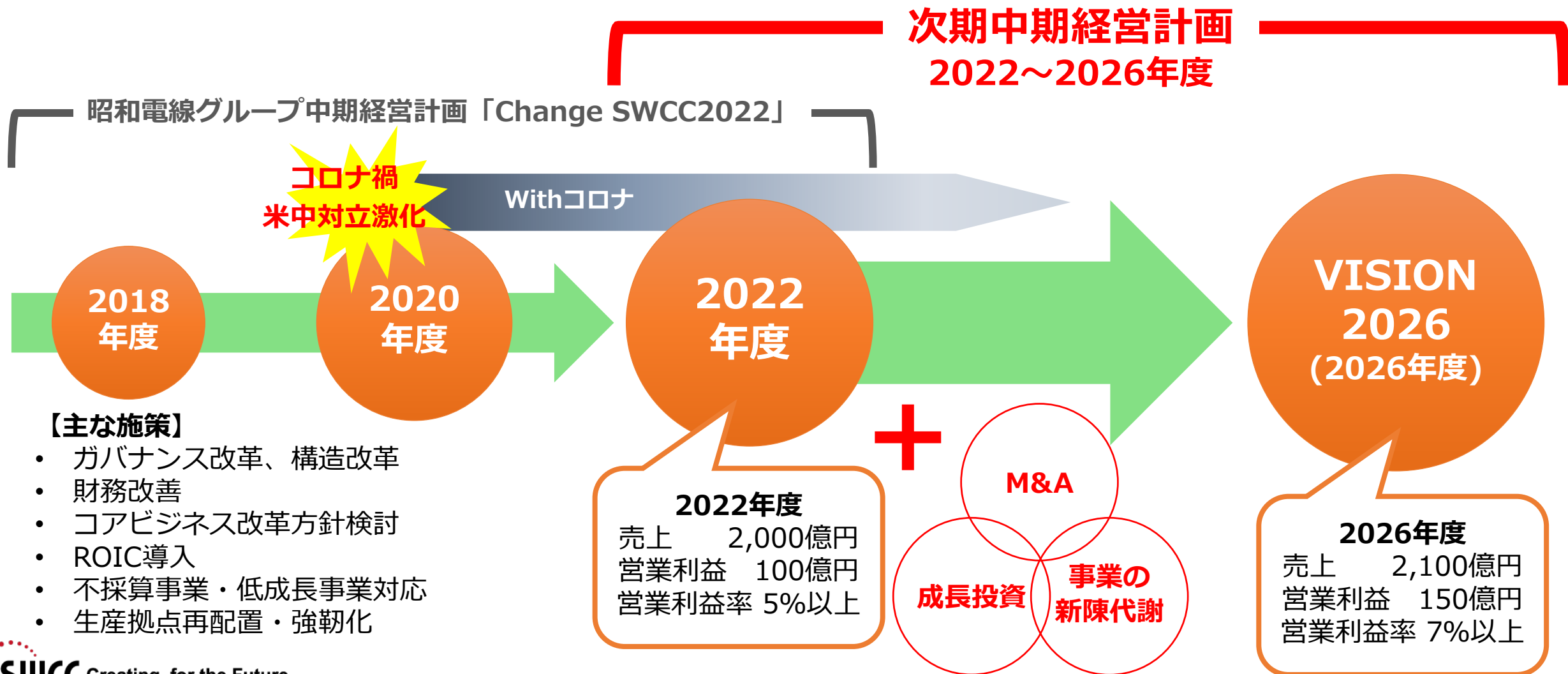
EPS、モーター、変圧器 他



多様な使われ方に対応するため  
豊富なラインナップが求められる

# 中期経営計画の見直しについて

2021年11月の公表に向けて、次期中期経営計画の策定を進めております。



# 中期経営計画 数値目標 (KPI)

(単位：億円)	2020年度 実績	2021年度計画 (収益認識基準適用前)	2021年度計画 (収益認識基準適用後)	2022年度中期経営計画 (収益認識基準適用前)	VISION2026 (収益認識基準適用前)
売上高	1,617	2,000	1,800	2,000	2,100
営業利益	76	86	86	100	150
経常利益	78	83	83	95	150
親会社株主に帰属する 当期純利益	50	68	68	66	100
営業利益率	4.7%	4.3%	4.8%	5%以上	7%以上
配当/配当性向	20円 (12%)	40円 (18%)	40円 (18%)	50円以上 (約20%)	120円以上 (約35%)
有利子負債	377	390	390	380以下	300以下
DEレシオ	79%	73%	73%	70%以下	40%以下
純資産	482	543	543	550以上	800以上
自己資本比率	36.7%	38.4%	38.4%	38%以上	50%以上
ROE	11.4%	13.5%	13.5%	10%以上	10%以上
ROIC	6.3%	6.7%	6.7%	7%以上	9%以上

※「収益認識に関する会計基準」適用により、当該基準適用後の当社グループの2022年3月期連結業績予想につきましては、「2021年度計画（収益認識基準適用後）」に記載のとおりです  
 ※DEレシオは自己資本で算出しております



Creating for the Future

**昭和電線ホールディングス（株）**  
**（東証1部：5805）**

### **お問合せ先**

昭和電線ホールディングス（株）  
経営戦略企画部 戦略課  
TEL：044-223-0520  
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

<https://www.swcc.co.jp>



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。



<Appendix>



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

<https://www.swcc.co.jp>

# 2021/3期 (2020年度) 決算総括

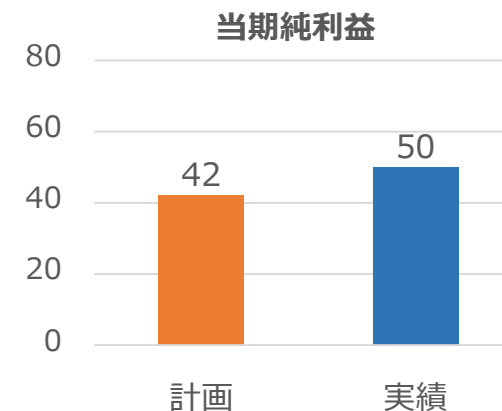
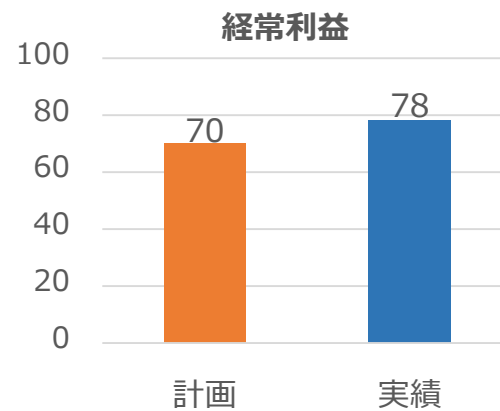
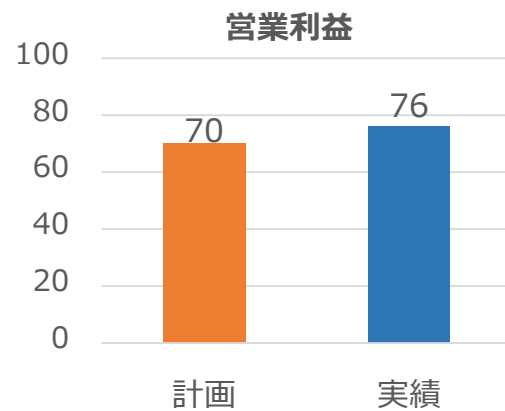
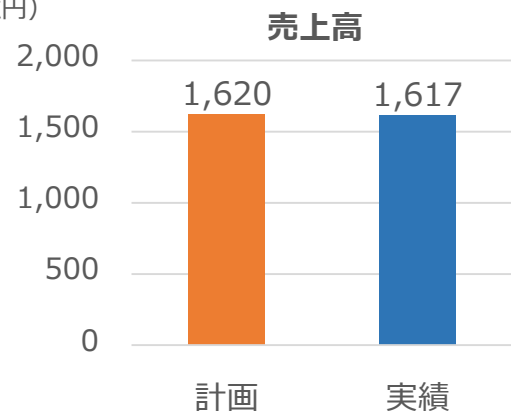
業績：コロナ禍による影響はあったものの、利益面での計画は達成

- ・ **エネルギー・インフラ事業**：電力インフラ向け需要は当初の想定どおりに推移。建設関連向け需要も緩やかに回復しつつ推移した。
- ・ **通信・産業用デバイス事業**：5G関連等の通信ケーブル需要は持ち直した。産業用デバイスは中国を中心に回復が見られた。
- ・ **電装・コンポーネンツ事業**：重電向けの需要低迷が継続したことから減収となったが、利益面では自動車向けの需要が回復し、増益となった。

## 計画達成状況 (売上高/営業利益/経常利益/当期純利益)

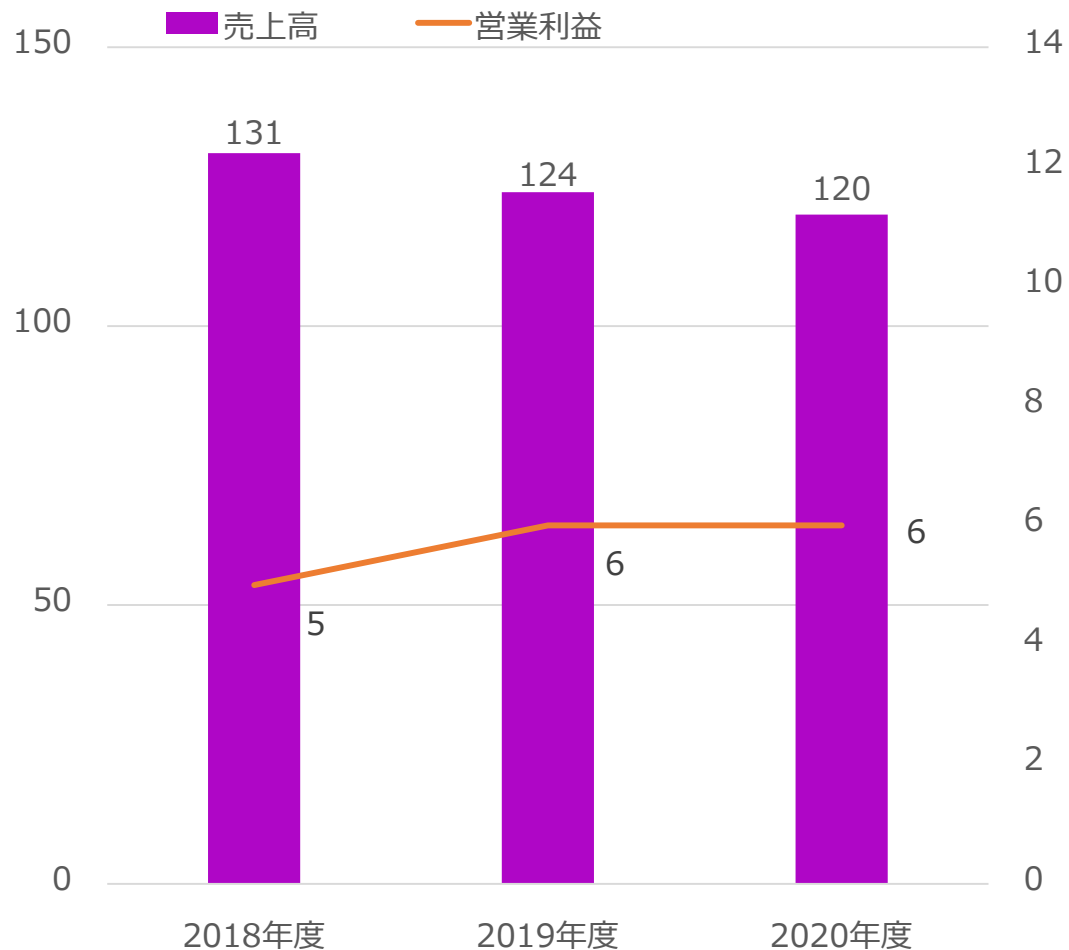
※対2月3日発表計画

(単位：億円)

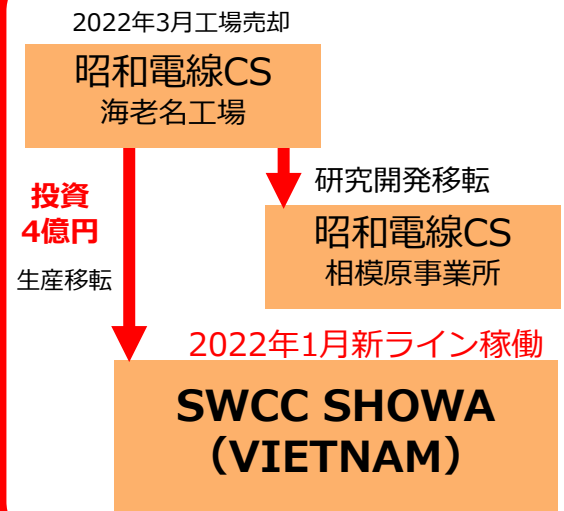


# 海外事業会社 実績と動向

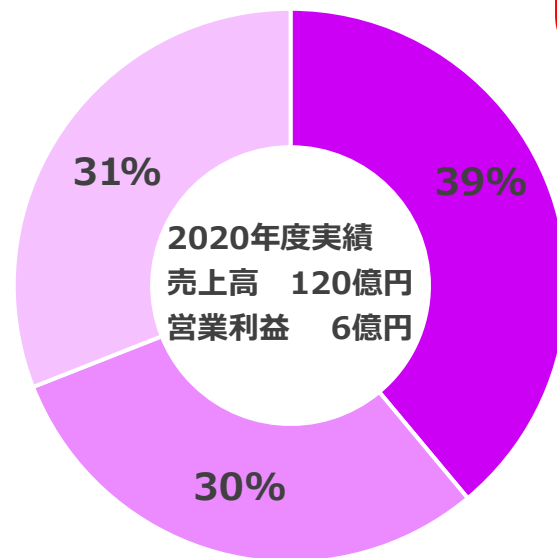
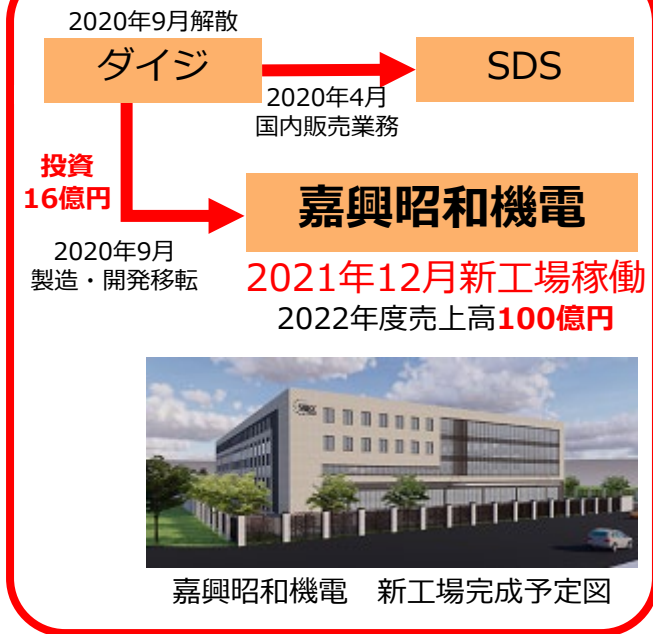
(単位：億円)



## 精密デバイス事業の動向



## ワイヤハーネス事業の動向

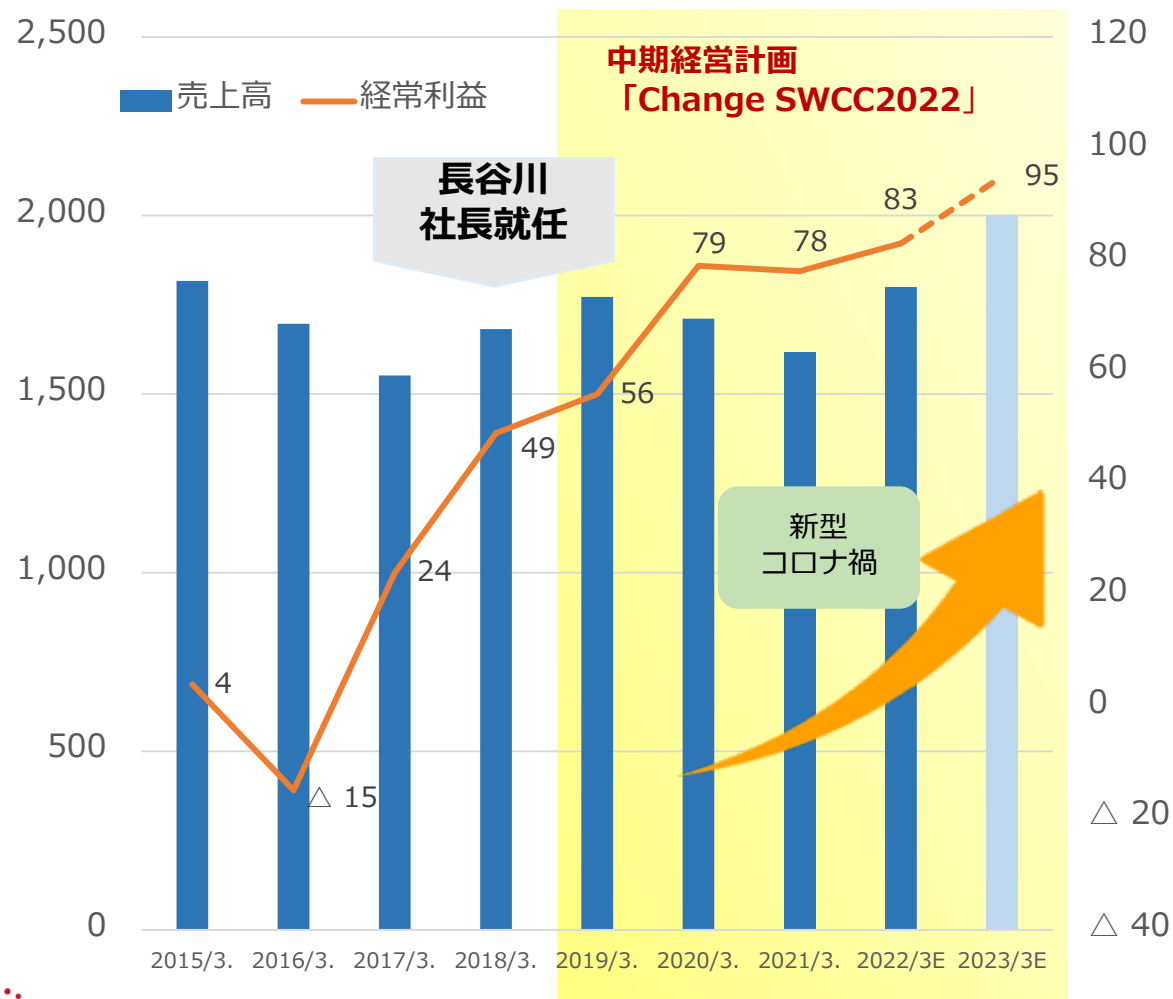


## 売上高構成

- ワイヤハーネス
- 精密デバイス
- その他

# 継続した構造改革の推進

(単位：億円)



- 2017年12月:本店を港区虎ノ門から川崎市川崎区に移転
- 2018年 6月:社長に長谷川が就任。

## 中期経営計画「Change SWCC2022」推進

- 2018年12月:指名委員会・報酬委員会を設置
- 2019年 4月:コーポレートガバナンス体制の見直し  
事業セグメント変更、執行役員制度の強化
- 2019年 6月:監査等委員会設置会社へ移行
- 2019年10月:昭和電線ユニマックを完全子会社化
- 2019年11月:中計のローリングプラン公表
- 2020年 4月:昭和電線ユニマックが多摩川電線を吸収合併
- 2020年 4月:古河電気工業とのJV販社SFCC営業開始
- 2020年 4月:人事制度改革 (新人事制度導入)
- 2020年 6月:ゴム線事業売却・譲渡契約の締結
- 2020年 9月:ダイジ解散 (岡山・山形工場閉鎖)
- 2021年 4月:制振制音事業を昭和サイエンスに集約
- 2021年 7月:ロジス・ワークスが昭和リサイクルを吸収合併
- 2021年12月:通信ケーブル拠点再編による青森昭和電線解散
- 2021年12月:中国嘉興市ワイヤハーネス新工場稼働
- 2022年 3月:通信ケーブル事業構造改革完了
- 2022年 3月:昭和電線ケーブルシステム 海老名工場売却



# ROIC経営に基づく基盤事業の構造改革

効率化・収益化のための構造改革を加速

組織再編  
(合併・分割)

ロジス・ワークスが  
昭和リサイクルを吸収合併  
(2021年7月予定)

電線の運搬・回収・リサイクルによる  
循環型ビジネスでの収益力強化

ROIC  
営業利益率



拠点再編  
・  
製造改革

通信ケーブル事業  
拠点再編による構造改革  
(2022年3月予定)

製造・開発拠点を集約による  
効率化と収益力強化

ROIC  
営業利益率



SICONEX®増産投資  
(2023年4月完工予定)

電力需要拡大を見据えた  
増産投資の前倒し

ROIC  
売上高



被覆線事業のDX化  
(2023年4月予定)

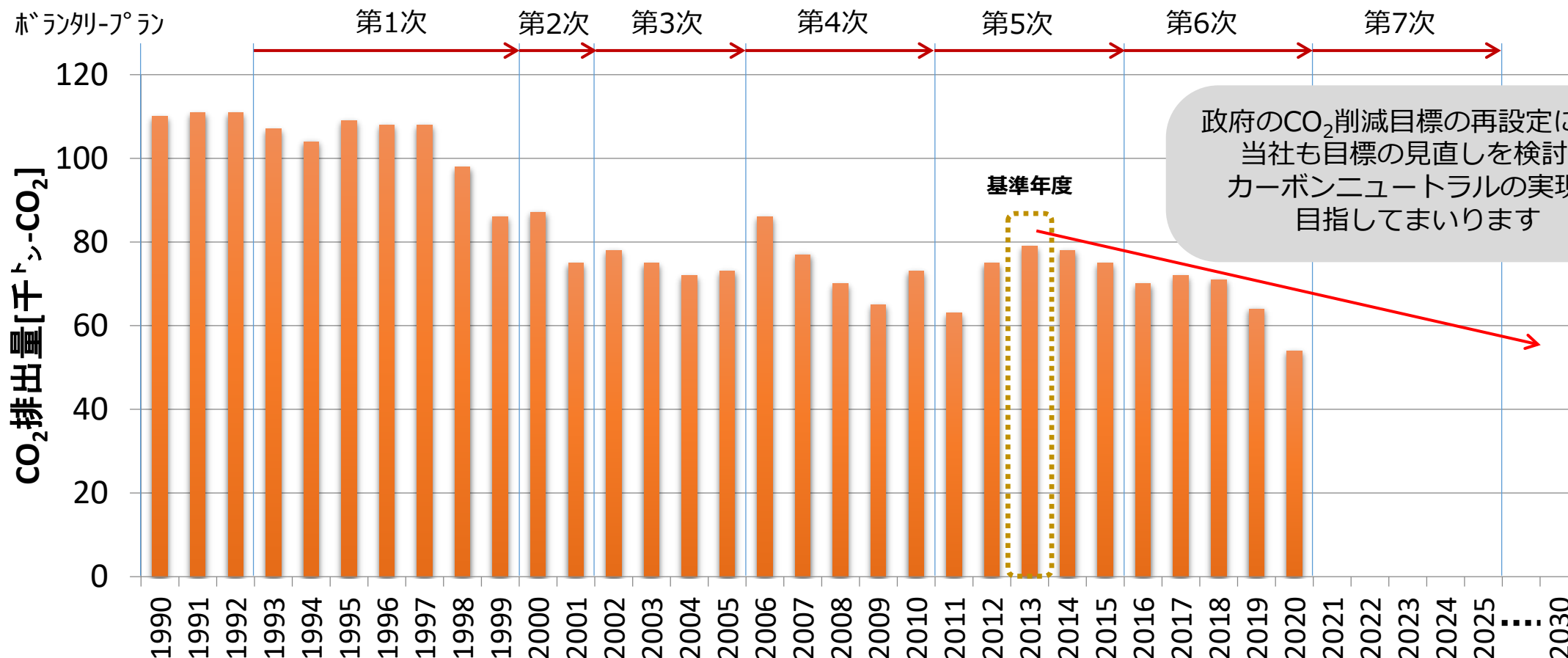
受注から販売まで一括してIoTを導入  
ビジネスプロセスをデジタル化し  
効率化・収益力強化

ROIC  
営業利益率



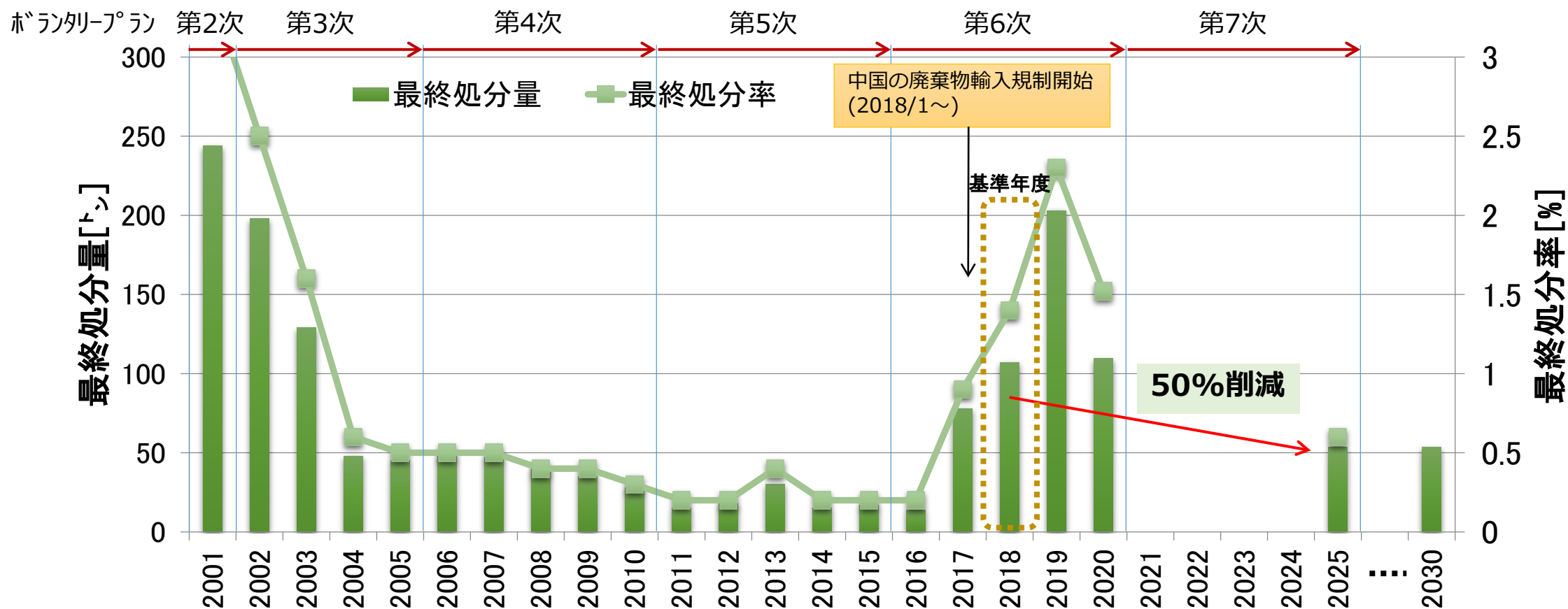
# 環境目標 『地球温暖化防止』

## CO<sub>2</sub>排出量の変遷



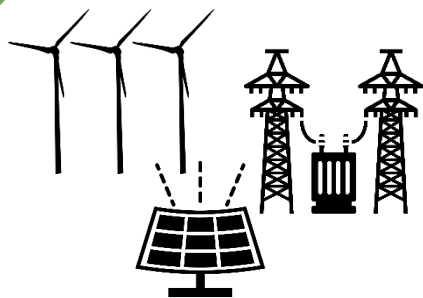
# 環境目標 『資源有効活用』

## 最終処分量の変遷



# グリーン化とデジタル化に貢献するSWCCグループ

SWCCグループの製品・技術で世界のこれからの貢献します



## 再生可能エネルギー

- ・ SICONEX®
- ・ 連系工事
- ・ 保守メンテナンス 他

## 超電導ケーブルシステム

- ・ 三相同軸ケーブル
- ・ 冷却システム
- ・ 系統監視技術 他



## グリーン化

### CASE(環境対応車)

- ・ MiDIP®(無酸素銅)
- ・ 車載用アルミケーブル
- ・ 高速伝送ケーブル 他



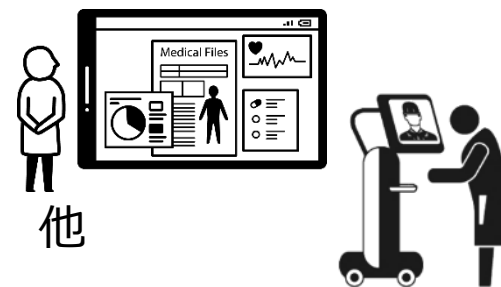
## データセンター

- ・ e-Ribbon®(光ファイバー)
- ・ Cat6A LANケーブル
- ・ 免震アイソレータ 他



## デジタルヘルス

- ・ 電子カルテシステム
- ・ 認証ネットワーク
- ・ ロボット用配線部材 他



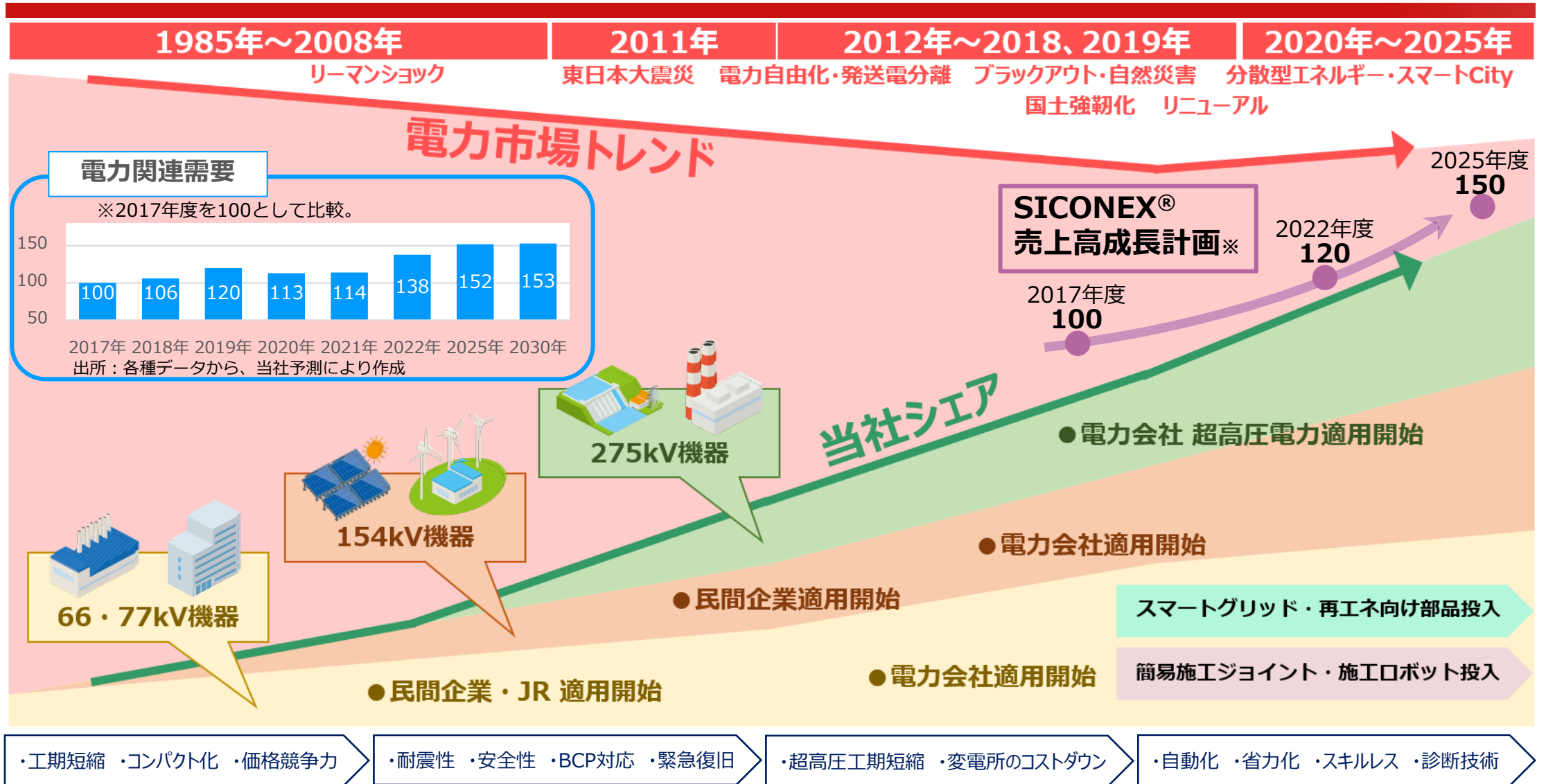
## デジタル化



### スマート物流

- ・ 最適車両の活用
- ・ 配送の効率化 他

# 電力インフラでの **SICONEX** シェア拡大



# LANケーブル事業の成長戦略

甲府工場をLAN専用工場に。  
開発から製造・量産までをスピーディに行い、最新市場へタイムリーに参入していく。

建販市場で培った  
LANケーブルの技術を

5G、Wifi6、自動運転へ

上位規格化

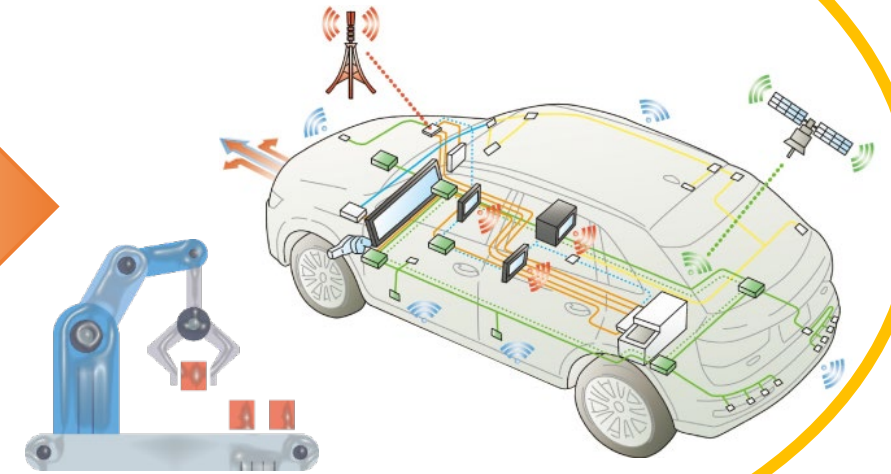
さらに発展させて

高速化

新製品

増産

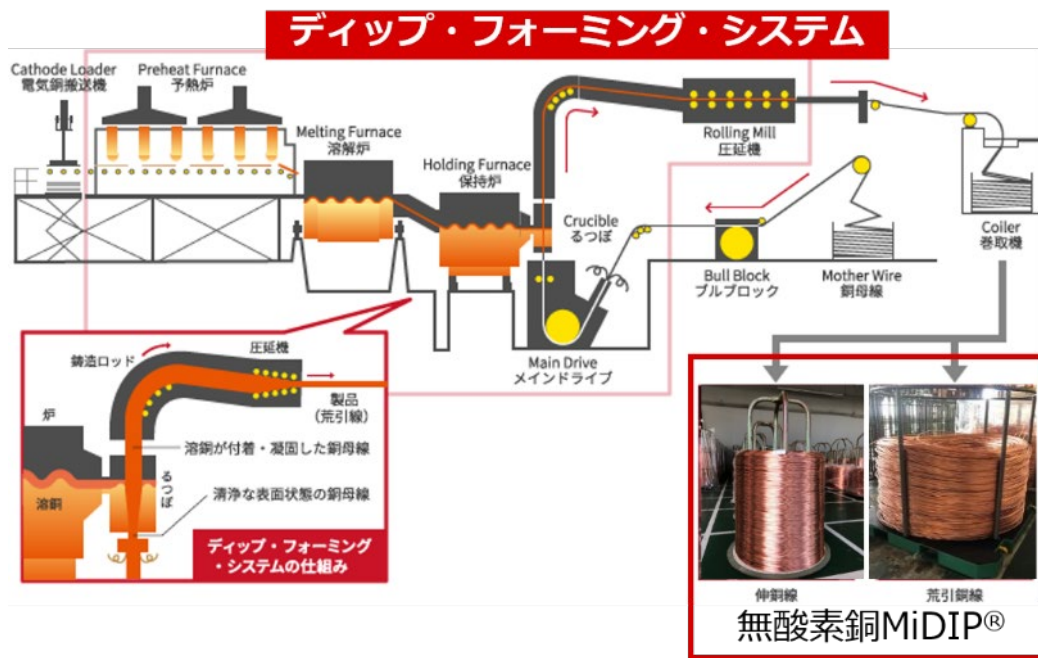
ラインナップ  
増強



高速化：10Gbps⇒100Gbpsへ挑戦  
細径化・耐熱性・可とう性など  
需要の多様性に対応

# 無酸素銅 MiDIP®の特徴®

当社独自の製造方法で作る無酸素銅の銅線



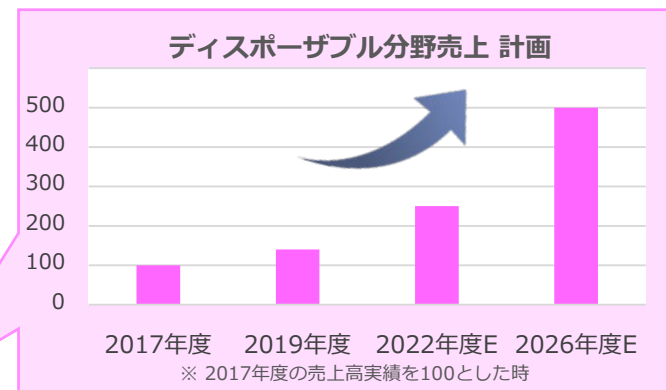
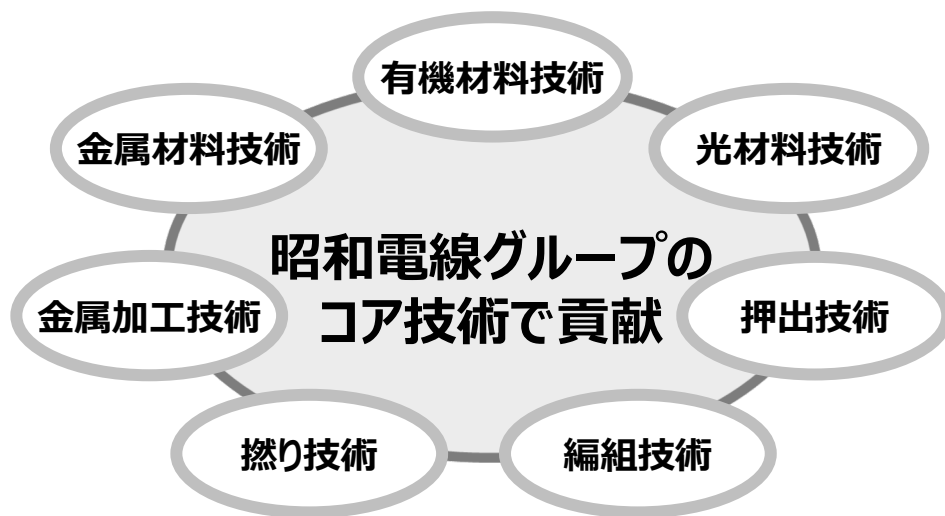
	MiDIP®	無酸素銅	タフピッチ銅
酸素含有量	◎	○	△
導電率	◎	○	○
加工性 (曲げ、細線)	◎	○	△

モーター用のコイル等に使われ、環境配慮型自動車やPC・スマートフォンなどの電子機器に利用される

日本で唯一の製造設備のため、同じ品質を他社で実現することは不可能

安定した品質を長尺で製造することが可能で、特に自動製造ラインでの加工に適している

# 新規事業への取り組み（ヘルスケア分野）



## 医療機器分野



## 病院インフラ分野



## ディスプレイ分野



## 医療IT分野



ディスプレイ分野やIT分野に注力



# AI、IoT、TOC（制約理論）を融合したスマートファクトリーの構築



レベル  
1

## デジタル化

2020年4月(@茨城工場)  
受注から配送までのデジタルデータ  
一元管理



レベル  
2

## ネットワーク化

レベル  
3

## ロボット導入による省人化

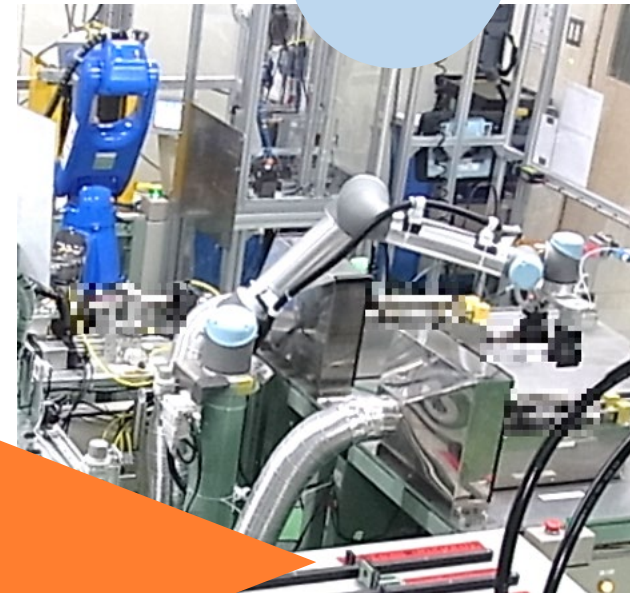
2020年7月(@海老名工場)  
精密デバイス製造工場の一部で  
無人化実現

レベル  
4

## クラウド化

無人自動製造ライン  
究極の最終形を目指す

レベル  
5



全社へ展開するための次世代を担う人財育成  
さまざまな改革推進プロジェクトがグループ各社に広がりを見せている

# 中期経営計画「Change SWCC2022」業績

